

学習内容報告書

学校名	長崎県立猶興館高等学校
授業者	幾世晋二・林田文香・有馬敏男・佐々木隼・田島浩子・村田誠一郎・長池美樹・前田祐作

1. 単元計画

1-1. 単元名

ふるさと平戸未来探究

1-2. 学年

2 学年（普通科）

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な探究の時間

1-4. 単元の概要

【テーマの設定】

1 年次、「産業」・「歴史・文化」・「福祉・医療・教育」「行政」の分野で、探究内容から 18 班のテーマ班を編成。それぞれの班で討議して、探究テーマと提言内容の概要を決定した。

【調査・研究】

テーマ班ごとに分かれて関連機関に実地研修に行き、インタビュー・アンケート・体験活動を行った。その後、班内で情報の分析・整理を経て、問題点と提言内容をまとめ、中間発表の準備を行った。

【中間発表】

テーマ班ごとに、調査結果から問題点・提言内容を発表した。質疑応答で、不明な点や修正点を生徒間で行い、教員・関連機関の指導・助言を受け本発表につなげていった。

【本発表】

1 年間の活動の総まとめ。各班テーマ探究の提言内容を発表した。

【地域への発信】

活動で得られた提言内容や作成したリーフレット・アンケート集約結果などを各関係団体に提出。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

「地域探究」で身近な社会について考え、外部の機関と接する機会は、生徒の社会性を育てることになる。また社会の諸現象を客観的に捉え、情報を収集・分析し、そこから問題点をあぶりだし、その解決策について考察・討議を行って、合意を形成する活動は、学問研究の基本的な方法であり、今後様々な活動に活用できるものと期待できる。また主体的に社会にかかわるこれらの活動は、今後社会を担う主権者を育てることにもつながる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・情報を収集し、整理・分析する能力。
- ・協働性と合意形成力。
- ・リーダーシップとフォロワーシップ。
- ・地域の問題点や魅力を発見する前向きな視点。
- ・主権者意識。

1-7. 単元の展開（全22時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	ガイダンス 年間活動と中間発表までの活動の詳細の確認。	年間計画表
4	実地研修 計画（質問・資料・体験の内容） 事業所への連絡と研修後の活動計画 実地活動 事前に質問・資料提供を依頼する。 インタビュー・実地体験を行う。	連携機関への依頼文書 連携機関 ・平戸市役所 （水産課・企画財政課・観光課・こども未来課・長寿介護課・健康保険課・商工物産課・都市計画課） ・平戸市社会福祉協議会 ・松浦史料博物館 ・青洲会病院 ・平戸市教育委員会 ・平戸市消防署
3	分析・考察 実地研修で得られた情報の分析・考察。	情報を整理し、提言につなげていくよう指示。
2	中間発表準備 原稿・パワーポイント作成。	画面の見やすさ、文言の分かりやすさを指示。
2	発表練習 2会場に分かれ、タブレットの動作を確認。	班員の全員に係を分担させる。 発表時間は6分以内を指示。
2	中間発表 生徒運営による司会進行・質問・アドバイス 相互評価 連携機関からの指導助言	タブレット、ホームスによる相互評価。 連携機関 平戸市役所・平戸市消防署
4	追加調査・分析・考察 本発表に向けて追加の調査を行う。 情報を分析・考察し、提言内容をまとめる。	連携機関 平戸市役所・平戸市消防署・平戸市社会福祉協議会 松浦史料博物館・平戸市教育委員会
2	発表準備 発表原稿・パワーポイントの訂正 発表練習	画面の見やすさ、文言の分かりやすさを指示。 班員の全員に係を分担させる。
2	本発表 生徒運営による司会進行・質問・アドバイス 相互評価 連携機関からの助言・評価	タブレット、ホームスによる相互評価。 連携機関 平戸市役所・平戸市消防署・平戸市社会福祉協議会

2. 学習活動の実際

実地研修

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

2-2. 本時の目標

・インタビューや体験を通して、テーマ探究に必要な情報収集を行う。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
①準備 質問内容・提供してほしい資料・事業所で行いたい体験などを事前にリストアップし、依頼文書を作成する。	関係機関あて文書の基本書式を準備する。 班内の話し合いを協力しておこなうことができたか。
②準備 関係機関への電話で研修の協力を依頼し、研修後の活動計画を立てる。	電話マナーの基本を指導。 研修から帰ってきてからの情報整理や次回の指示を事前に指導。
③実地研修 関係機関を訪問し、インタビュー・資料提供・体験活動などを行う。 実地研修で、新たな情報や実情を知り、認識を新たにした。	担当教員が同行。 形式的な質疑応答にならないよう、質問内容をきちんと伝え、回答を聞いて発展的な追加質問ができたか。
④事後活動 質疑応答の内容・提供された資料の集約 実地研修の自己評価	中間発表に向けての活動計画を立てさせる。

3. 今回の活動の自己評価

長い期間の班活動では、班内の活性の違いによって遅速が生じ、予定どおり進まなくなることが多い。そうした進度の遅れが生じないように、毎回活動内容の詳細をレジメにして、担当教諭・生徒全員の共通理解を図った。その結果、当初の予定通り実施することができた。

テーマ設定は、生徒自身の進路と関連付けたものが多く、この探究活動は進路研究の一環として位置付けている。

地域探究は、自分たちの住んでいる地域の魅力や問題点を発見し、より深く故郷を知る機会となる。この活動が契機となって愛郷心が育ちふるさと定住につながり、過疎化の歯止めになって欲しい。またこの活動で身に着けた探究手法は、学問の基本的な方法として、今後の学生生活に活かされると思われる。更に外部の方々と接することで、少なからず社会の慣習や礼儀を学ぶ機会も得た。

この活動の最終目標は、「地域への発信」にある。1班は、漁業の魅力動画を発信し、「長崎県漁業の魅力発信 YouTube 動画コンテスト」で優秀賞を受賞した。その他5班は探究の成果を「ジャンガラの秘密」として冊子を作成し、教育委員会を通じて、小学校へ配布。6班は歴史に関する観光リーフレットを作成し、平戸市観光課へ提供。9班は、機能回復を狙ったゲームを3種類考案し、社会福祉協議会に作成物を提供し

た。11班は、ADEのコンビニ設置を提案。14班は小中学生に行ったアンケートを集約し、教育委員会に提言した。15班は、若い母親向けに離乳食の提案を行った。このように様々な形で、探究活動の成果を社会に発信することは、たとえ未熟な内容であっても、社会との関りを持ち、社会に貢献する意識を涵養することになるのは確かである。

4. 今後の課題

探究手法がもっと精緻なものになれば、中間発表を設けることなく、日程も短縮も可能であり、他の探究活動の時間を割くことができた。

テーマ設定は、生徒の希望であるので、毎年必ずしも海洋に関するテーマがあるわけではない。

地域探究が、該当学年の単発な活動であり、探究の継続性といった通時的な活動に至っていない。また、平戸という限定した地域を対象としているので、他の地域と比較するような共時的な広がりをもつ探究活動となっていない。

これらの問題を視野に活動の発展を考えなければならないことが今後の課題である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし。